

こども病院の人工島移転

撤回へ力をあわせましょう

日本共産党福岡市議団



福岡市の吉田市長は「市立病院の人工島移転を見直す」との選挙公約を破り、こども病院を人工島に移転させ、運営も「地方独立行政法人」に変えようとしています。

これに対し、市民から強い反対と批判の声があがっています。

日本共産党は市立病院の人工島への統合移転に一貫して反対してきました。こども病院については現地とその近辺で建替え・整備することがふさわしいと考えています。その立場から、市民のみなさんと力をあわせて、こども病院の人工島移転の白紙撤回を求めてがんばります。

人工島の破たん救済先にあき

人工島は三セク「博多港開発」の土地が売れずに経営破たんの危機に。銀行への借金返済のため、市が病院用地として五万平方メートルを買い取ることが計画されました。それが、市立病院の人工島移転の出発点です。人工島の破たん救済先にあきでこども病院を移転させ、市民の健康を犠牲にする―こんなゆがんだ市政に、私たちは断固反対します。

福岡市議会ニュース

1020号 2007年12月

日本共産党福岡市議団

<http://www.jcp-fukuoka.jp>

福岡市中央区天神1-8-1市議会11階

電話092-711-4734

ご意見・ご要望をお寄せください。

子どものための公立病院を守ろう

小児医療の「適正配置」崩れる

市内には3つの小児専門医療機関(こども病院、九大病院、福大病院)があり、身近な小児科医院と連携しています。ところが、こども病院を人工島に移転すれば、西部地域に小児医療の空白が生まれることとなります。子どもの医療に格差を持ち込むことがあっていいでしょうか。

最もふさわしくないのが人工島

人工島は救急病院の場所としても問題があります。「公共交通機関はバスだけ。小さい子の通院はたいへん」「地震で液状化現象が起きたのに大丈夫か」「災害時に交通が遮断されるのでは」など、不安と疑問は当然です。

建替えば現地または近辺が最適

市は「面積も広く移転費用も安いこと」を理由に人工島が最適だと言います。しかし、いまのこども病院に近い当仁中学校跡地(城南区鳥飼)は市の土地なので費用ゼロ。面積では九大六本松キャンパス跡地も十分です。こうした条件を無視した「検証」では納得できません。

子どもの命と健康を守るため

そもそも、子どもの命と健康を守るために税金を生かすのが行政に求められているはずで、経費削減を目的に移転したり、公立病院から撤退したりすることは、許されないのではないのでしょうか。



日本共産党福岡市議団

電話092-711-4734 <http://www.jcp-fukuoka.jp>